

実は増えている“梅毒”

梅毒の検査は感染症スクリーニングとしてかなり一般的に行われてきた検査です。疾患としての梅毒は、しばらくは患者数は少ない状態が続き、症例を経験する医師が限定されていると聞きます。検査する側も、検査の重要性にいくばくかの疑問をもちながらも、決め事だからと漫然と向かいあってきた印象があります。しかし最近、患者数は増加傾向にあります。2017年の感染者は5,000人を超え、これは44年ぶりとのことです。

本特集では、まず梅毒の歴史から学び直し、現在の臨床像、検査の現状と精度管理、検査が陽性となる病態、スクリーニング結果への対応など、知識をリフレッシュすることを意図して企画しました。この疾患を正しく理解して、梅毒検査の意義を再認識していただけたら幸いです。

山田俊幸(自治医科大学臨床検査医学)